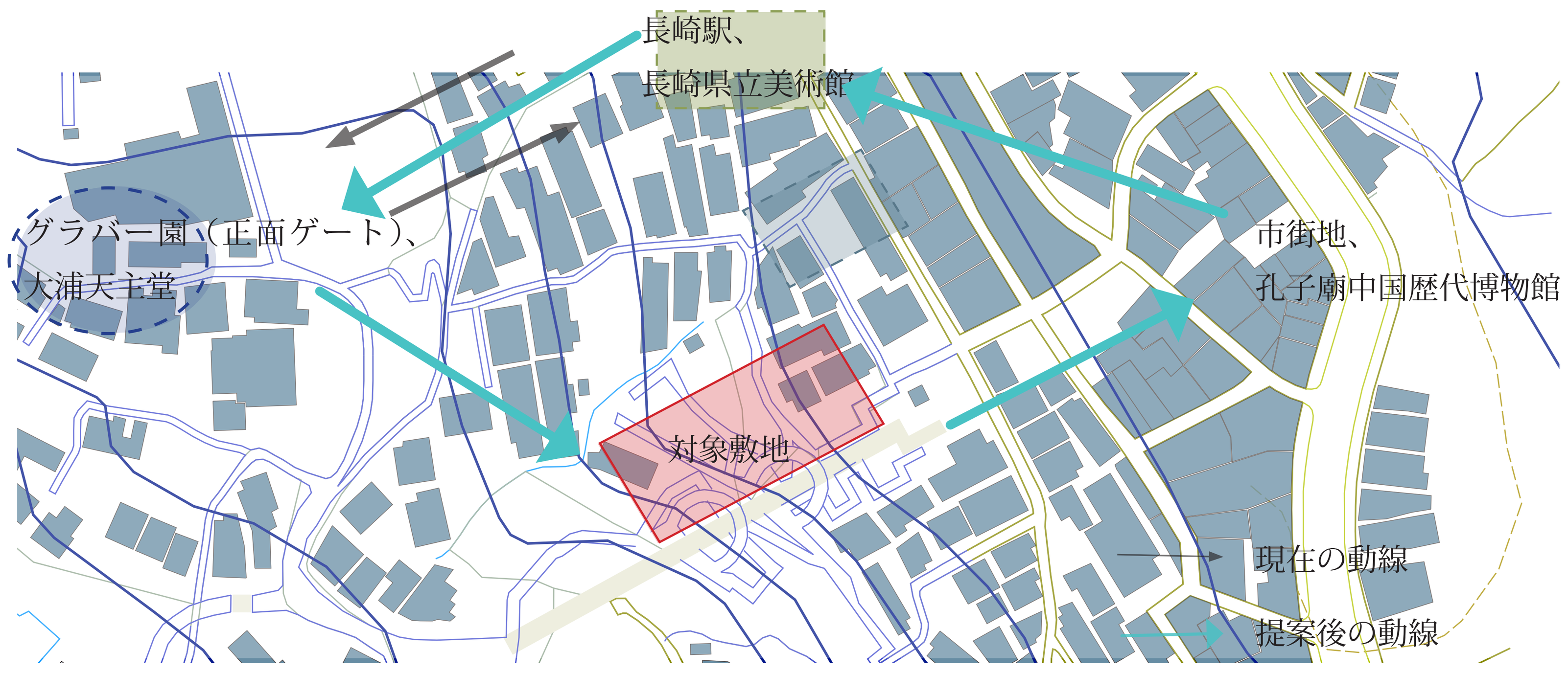
□対象敷地（長崎市南山手町）

対象敷地は市街地から歩いて 15 分程に存在する傾斜地。ここにはグラバースカイロードと呼ばれる斜行エレベーターが存在し、地元の人はこの地域特有の基盤インフラを活用しながら生活を営んでいる。

□都市スケールの検討

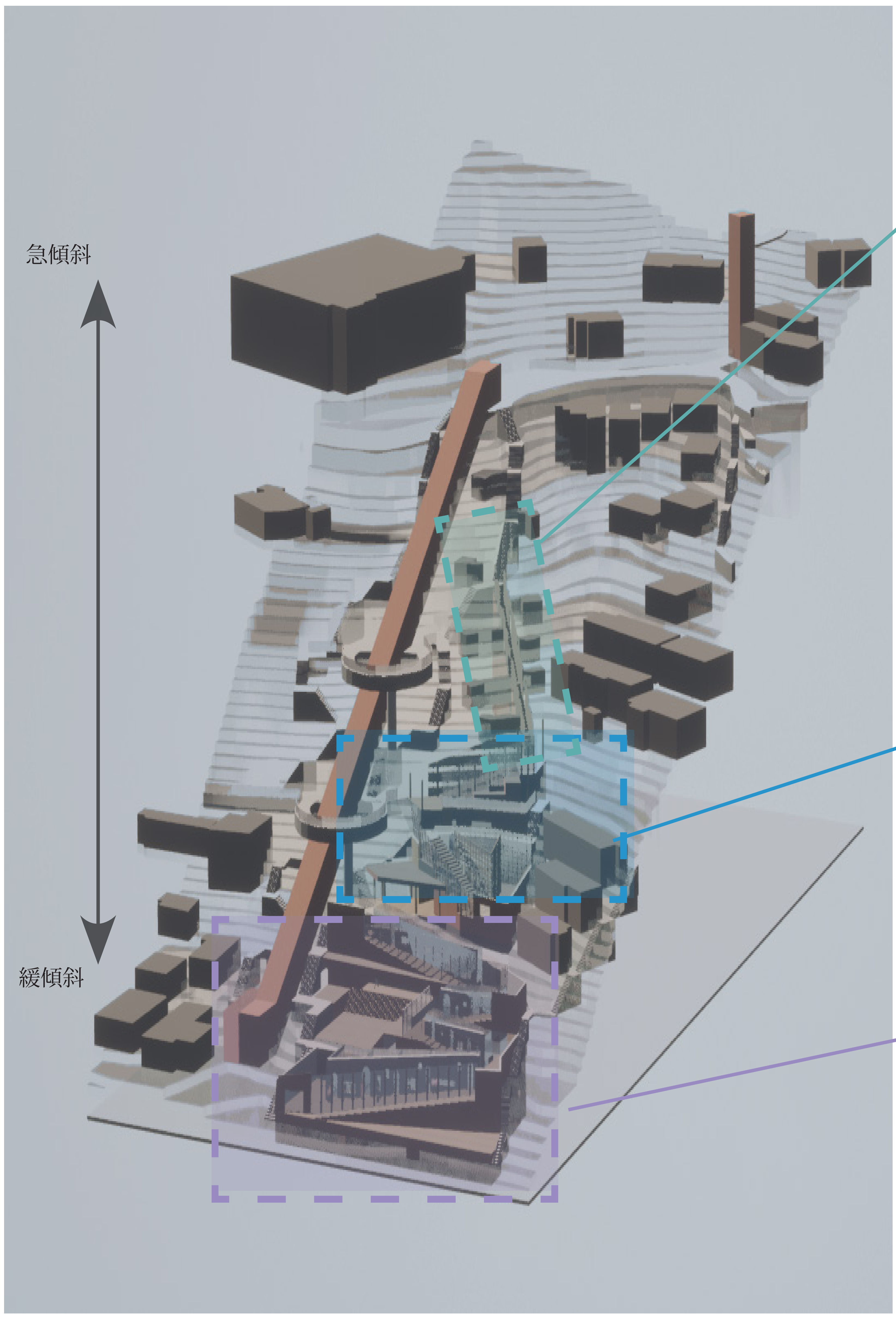
周辺には観光地として知られるグラバー園の第 1 ゲートや大浦天主堂があるため、長崎駅や県立美術館方面から訪れた観光客は、敷地を通らずに U ターンして街を巡回する。

対象敷地を活用することで市街地と住宅、観光地を循環させるネットワークをつくる。



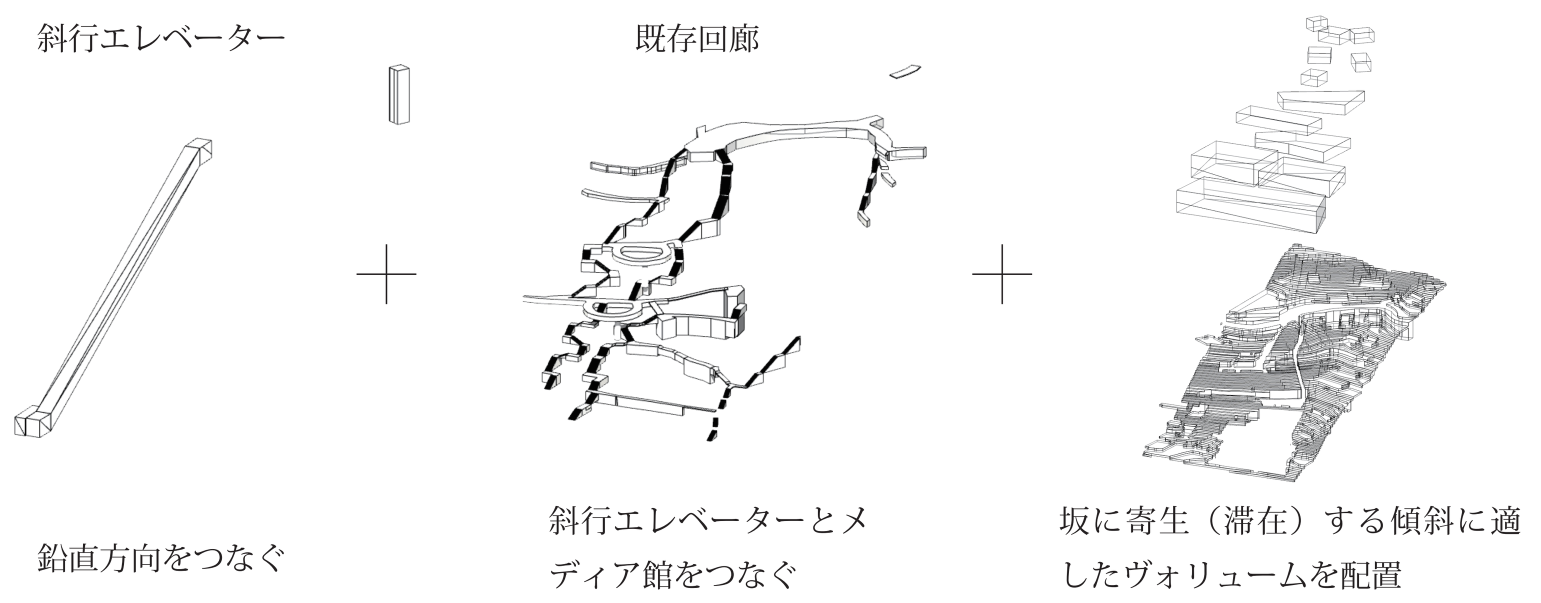
□傾斜について

長崎には地形に合わせて多種多様な坂や階段が存在する。本設計では傾斜が緩やかな低地から上にいくほど急になるという敷地の特徴を活かし、地形に準じた坂の空間を提案する。



□ concept

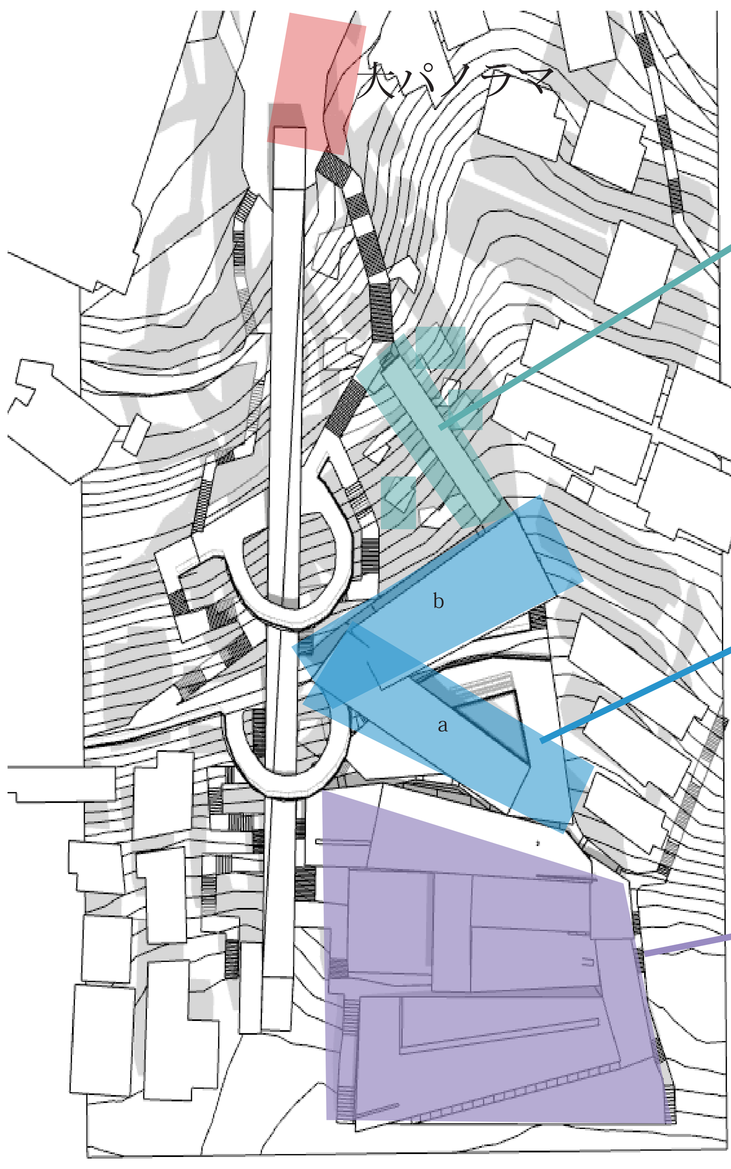
既存のインフラを用いて、傾斜地の価値を取り戻す



□景色の見え方、誘導

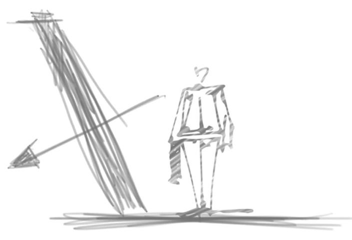
傾斜地を登るなかで刻一刻と変化する景色が長崎の魅力である。

それぞれのヴォリュームにより異なる景色を捉える。



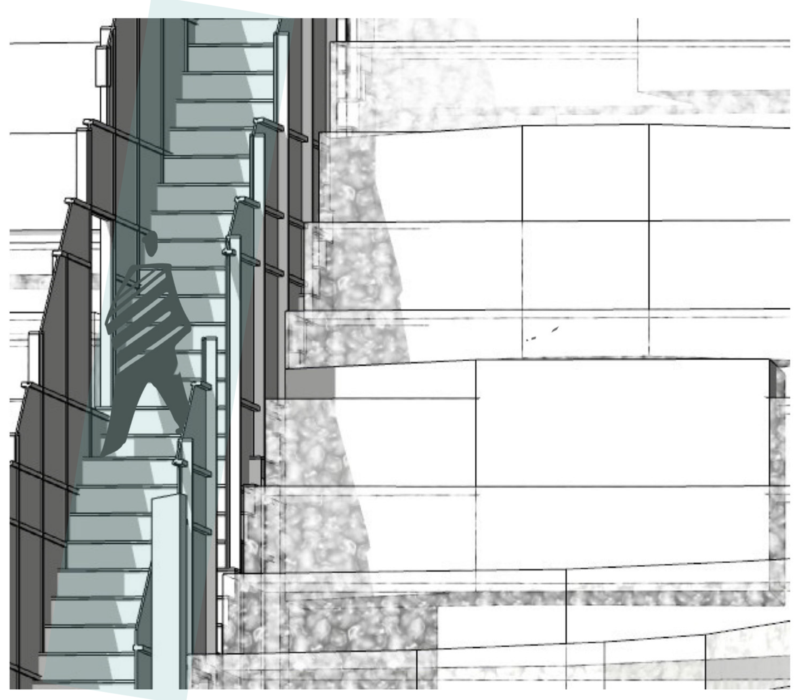
景色を切り取る。
既存の回廊の先にあるパノラマ景観と強弱をつけるため、あえて暗い回廊をつくる。両脇のボックスから光が漏れてくる。

長崎の歴史を見下ろす
ここまで登ってくると、段々と長崎の景色が見え始めてくる。a は外国人居留地としての洋館の数々を、b は開港 450 周年の長崎港の歴史を見下ろす。



長崎の地形を見上げる
すり鉢状の斜面に連なる山々とともに緩やかな傾斜を登る。斜めの壁は視線を斜めに向けさせる。

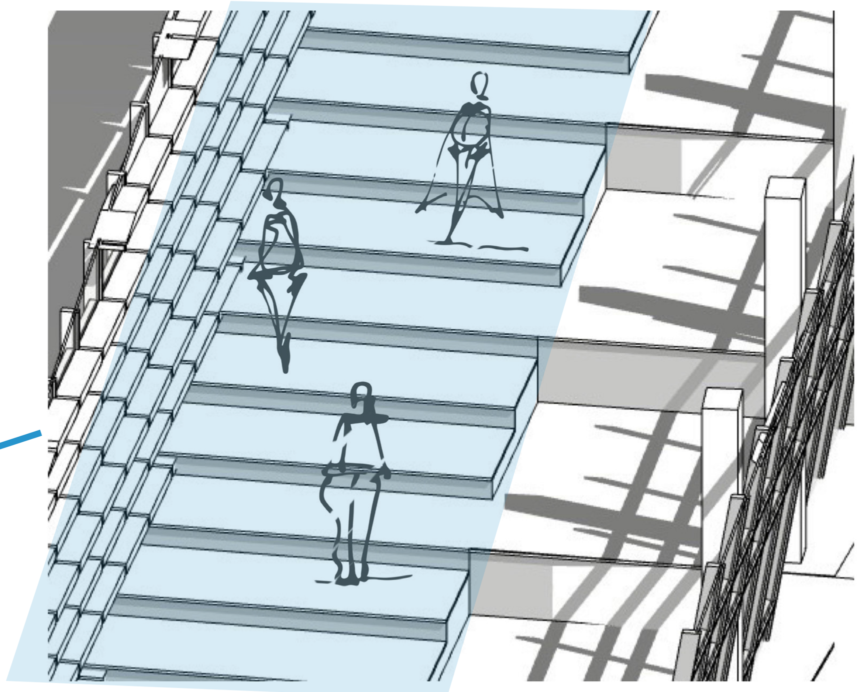
③私空間（急傾斜）



坂と踊り場とその先の箱に寄生する。

踏面 300 ～ 500
蹴上 230 ～ 250
休憩と展望、勉強のための個人空間

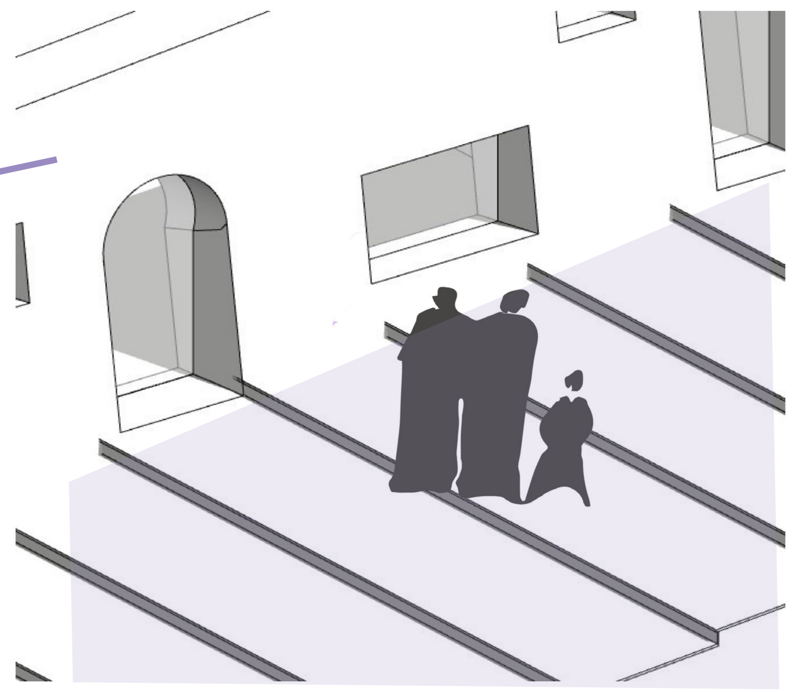
②図書館（中傾斜）



坂と踊り場に寄生する

踏面 800 ～ 1,000
蹴上 200 ～ 230
一時的な利用と長期的な利用

①伝統芸能館（緩傾斜）



坂自体に寄生する

踏面 1,500 ～ 2,100
蹴上 150 ～ 200
登る感覚をあまり与えないようにする。